

**第10回 理研バイオリソースセンター リソース検討委員会 諮問事項について
情報解析技術室**

日 時 平成24年2月28日（火）10:00～12:28

場 所 富国生命ビル 23階 海洋開発研究機構 東京事務所 共用B会議室

出席者

（委員等）宮崎 智 委員長、伊藤 剛、鶴川 義弘、菊池 俊一、颯田 葉子、中村 保一
宮下 信泉、各委員

（事務局）小幡センター長、阿部副センター長、深海情報解析技術室長、今泉研究推
進部長、村上課長 他

1. 実績について

評価コメント

【全般】

- 震災等の対策もあり、外部（レンタルサーバー）の導入を検討している点は評価できる。
- 運用支援業務は概ね良好と思われる。
- 他機関リソースデータベースとの連携で、NBRP、IMSR との連携は実用性が高く評価できる。

助言・提言

- 非常時への対策について、BCP（Business Continuity Plan）の策定を急ぐべき。リソースの対一のデータは、すぐ使えるような形でバックアップが取られているか確認すること。バックアップは、最低限、何をすれば良いかを厳選すべき。現有のシステムを、空調、UPS の異常信号を受け取ったら自動停止するように改善する必要がある。
- Web サイトの更新については計画にとどまっているが、今後に期待する。
- システム運用のアウトソーシングについては、利点、欠点及び用途を十分に考慮し、運用のコントロールができる範囲で行うと良い。機密情報であっても、安全に保つのであれば外でも良いと思われる。レンタルサーバーは、地理的場所を明確に指定して置ける方が安全である。クラウド環境の利用は、どう利用するか検証を行うため、自ら操作できる開発環境を用意することが前提。
- 他機関リソースデータベースとの連携では、今後は NBRP、IMSR 以外のデータベースとの連携も進めて欲しい。
- 研究員の配置等、マンパワーの利用で、室の活動を充実させて頂きたい。
- アクセス状況については、アクセス元の分類（理研内外、国内外）や、滞在時間も出されると良い。
- 他のリソース開発室との定期的な打合せを行うようお願いしたい。

2. 次期中期計画及び NBRP 計画について

- 情報整備プライオリティに関して「これまでと変わらず」と言うのではなく、具体的な内容を提示し、イノベーションや差別化が図れると説明した方が良い。例えば、ゲノム情報を取り入れて整備することで、他のサイトにはないデータベース連携を図るために専門の研究員を配置する、Medline のシソーラスと合わせる、全部 Google に任せる等の具体案を設定することが必要。
- リソースに関するメタデータの記述法、オントロジー等の国際センターになるといった、

リソース提供と並ぶ情報解析技術室に関わる柱を考えておくことが重要。

- Web サイトの全面刷新が大きな課題になっていると思われる。ユーザーの利便性の向上はもちろんであるが、「ウェブの全面刷新」後の維持/改善を容易にする工夫を是非考慮して欲しい。現有のデータベース スキーマの改良は必要ないか、検討の必要がある。
- リソース検索システムでは、あいまい検索（入力したキーワード）とともに、目的となるキーワードを提案して欲しい。リソースを横断的に、他のリソースの検索結果も示すことが出来るようにして欲しい。
- リソース関連情報のコンテンツ充実が良い方針である。情報の付加価値として何を加えることができるか、「誰の」満足度を上げるのか、という視点が必要。すそ野を広げる動画等や、逆にインパクトの高い先端的な文献情報を収集し、解説を提供するとよいと思われる。リソース利用法を明示することは素人や初心者には判りやすく、一般への浸透を図る意味で良いと思われ是非行うべきだ。いわゆる千ドルゲノムが視野に入り、増加してきている配列情報への対応も考えて欲しい。
- Facebook やツイッター等の Web 公開新技術の調査も行った方が良い。
- 「インテリジェンス」をどう捕らえて、どう発信していくかが今後の発展に大きく関わってくると思われる。研究動向・バイオリソース評価は、バイオリソース事業の方向性を決定するうえで重要な要素となり得るので充実を望みたい。計量的尺度は重要だが、どの程度の「量」を目指すのか目標設定すべき。リソース提供事業については、説明できる収支モデル（cost、benefit）を案出しておいた方が良い。
- 成果文献の引用数（成果のインパクト）の追跡は google スカラの API (Application Program Interface) 等使うと可能であり、リソースの活用事例の追跡に使える。

以上